



Title	インフルエンザウイルスとは（季節性、鳥、新型インフルエンザ）
Author(s)	田邊, 雅章
Citation	大阪公衆衛生. 2015, 86, p. 8-10
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78623
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インフルエンザウイルスとは (季節性、鳥、新型インフルエンザ)

田邊 雅章

大阪府健康医療部保健医療室 医療対策課

1. かぜとインフルエンザ

インフルエンザはかぜ症候群(いわゆる‘かぜ’)の一種である。かぜ症候群は、ウイルスや細菌に感染し発症する病気であり、中でも、インフルエンザウイルスは感染すると高熱をはじめとしたさまざまな症状が全身に起こり、感染力も非常に強いという特徴があって、他のかぜウイルスと大きく異なる。インフルエンザの症状の特徴は、突然の発熱である。典型的な場合、39度を越えることがある。高熱に続いて鼻水や鼻づまり、のどの痛み、せきやたんなどの「上気道炎症状」と全身倦怠感、頭痛、関節痛、筋肉痛などの「全身症状」が現れる。

2. インフルエンザウイルス

インフルエンザウイルスはA型からC型に分類される。人にはすべての型が感染し、特にA型とB型ウイルスが季節性インフルエンザとして毎年流行する。他の型とは異なり、A型ウイルスの宿主域は広く、多くの動物(鳥や豚など)に感染し、主に呼吸器疾患を引き起こす。A型ウイルスの表面糖タンパク質(赤血球凝集素(ヘマグルチニン):HAとノイラミニダーゼ:NA)の抗原性により亜型に分類される。HAに16、NAには9の亜型があり、ウイルスの抗原性はそれらの組み合わせによりきまる。

3. 鳥インフルエンザウイルス

野生のカモ類は、その腸管内に正常細菌(ウイルス)叢の一種としてインフルエンザウイルスを保有している。したがって外見上健康なカモ類の多くは腸管にインフルエンザウイルスを保有し、糞中にウイルスを排出する。

カモなどの水鳥が持ち込んだ非病原性のウイルスは、野鳥を経由して、家きん(飼育目的で飼われているニワトリ、アヒルなど)に感染する。ウイルスがニワトリに感染を繰り返す間に、全身で増殖して、ニワトリを死に至らしめるほどの高い病原性を獲得することがあり、これを高病原性鳥インフルエンザウイルスと呼ぶ。

4. 新型インフルエンザ

新型インフルエンザウイルスとは、鳥インフルエンザウイルスが当初は偶発的に人に感染していたものが、遺伝子の変異によって人の体内で増えることができるように変化し、さらに人から人へと効率よく感染するようになったものである。また豚に、鳥とヒト両方のA型インフルエンザウイルスが同時に感染することにより、鳥インフルエンザウイルスが変異して、人から人へ感染する能力を獲得する場合も考えられる。

新型インフルエンザの症状は未確定であるが、大部分の人が免疫を持っていないため、季節性インフルエンザと比べると爆発的に感染が拡大し、非常に多くの人がり患することが想定されている。それと同時に肺炎などの合併症を起こし、死亡する可能性も季節性インフルエンザよりも高くなる可能性がある。

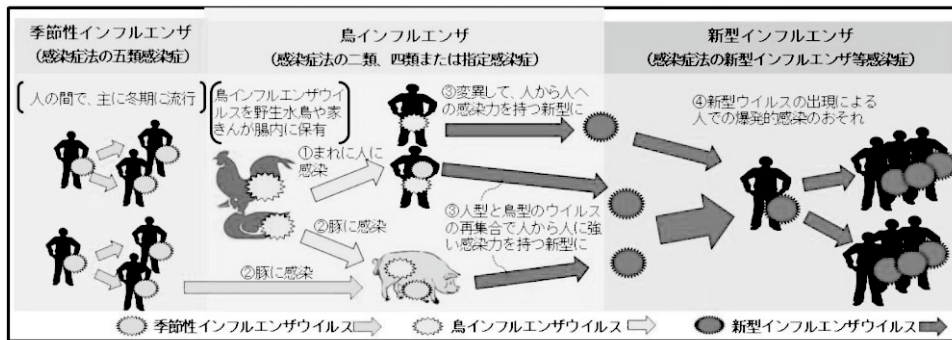
5. 大阪府の新型インフルエンザ等対策

平成25年に新型インフルエンザ等対策特別措置法が制定され、大阪府でも新型インフルエンザ等対策行動計画を策定した。行動計画は、感染拡大のピークと時期をずらすことを主眼とし、新型インフルエンザ発生早期には限定された医療機関のみにおいて診療を行うなどとしている。

各個人においては、季節性インフルエンザへの対応と同様に、①外出後の手洗い、②流行前のワクチン接種、③適度な湿度(50～60%)を保つ、④十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、⑤人混みや繁華街への外出を控えるなどの感染予防策にて対応する。また、インフルエンザに罹患した場合には、感染拡大防止のための咳エチケット(マスク着用など)や医療機関への早めの受診などにて対応することとなる。

(図1) 新型インフルエンザウイルスと季節性インフルエンザウイルスの違い
 (新型インフルエンザ等対策ガイドライン 新インフルエンザ等及び鳥インフルエンザ等に関する関係者省庁対策会議発行 P212より)

図1 季節性インフルエンザ、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ



(表1) 新型インフルエンザと季節性インフルエンザの違い
 (新型インフルエンザ等対策ガイドライン 新インフルエンザ等及び鳥インフルエンザ等に関する関係者省庁対策会議発行 P213より)

表1 新型インフルエンザと季節性インフルエンザとの違い

項目	新型インフルエンザ	季節性インフルエンザ
発病	急激	急激
症状 (典型例)	未確定(発生後に確定)	38°C以上の発熱 咳、くしゃみ等の呼吸器症状 頭痛、関節痛、全身倦怠感等
潜伏期間	未確定(発生後に確定)	2～5日
人への感染性	強い	あり(風邪より強い)
発生状況	大流行性/パンデミック	流行性
致死率*	未確定(発生後に確定)	0.1%以下

*致死率＝一定期間における当該疾病による死亡者数/一定期間における当該疾病のり患者数×100

引用・参考文献

- ・ わかりやすい病気のはなしシリーズ33 インフルエンザ 一般社団法人 日本臨床内科学会発行
- ・ 哺乳動物のインフルエンザ 堀本泰介 日本獣医師会雑誌 64,177-183,2011
- ・ 鳥インフルエンザウイルス -その生態、新型インフルエンザへの変異のメカニズム、農場か

- ら食卓までの安全管理 - 大槻公一 日本食品微生物学会雑誌 31(1),20-27,2014
- ・ 鳥インフルエンザの正体とその克服法 喜田宏 日本食品科学工学会誌 60(7),371-374,2013
- ・ 新型インフルエンザ等対策ガイドライン 新インフルエンザ等及び鳥インフルエンザ等に関する関係者省庁対策会議発行 平成25年6月26日

BIKEN



いのち
生命を守るワクチンを

乾燥弱毒生水痘ワクチン ウイルスワクチン類

乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」

生物由来製品

劇薬

処方せん医薬品^{注)}

薬価基準適用外

生物学的製剤基準

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、接種不適当者を含む接種上の注意等については、添付文書をご参照ください。



製造販売元

一般財団法人 阪大微生物病研究会
香川県観音寺市八幡町二丁目9番41号

【資料請求先】

学術課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘3番1号
<http://www.biken.or.jp/> ☎ 0120-280-980

2014年3月作成